

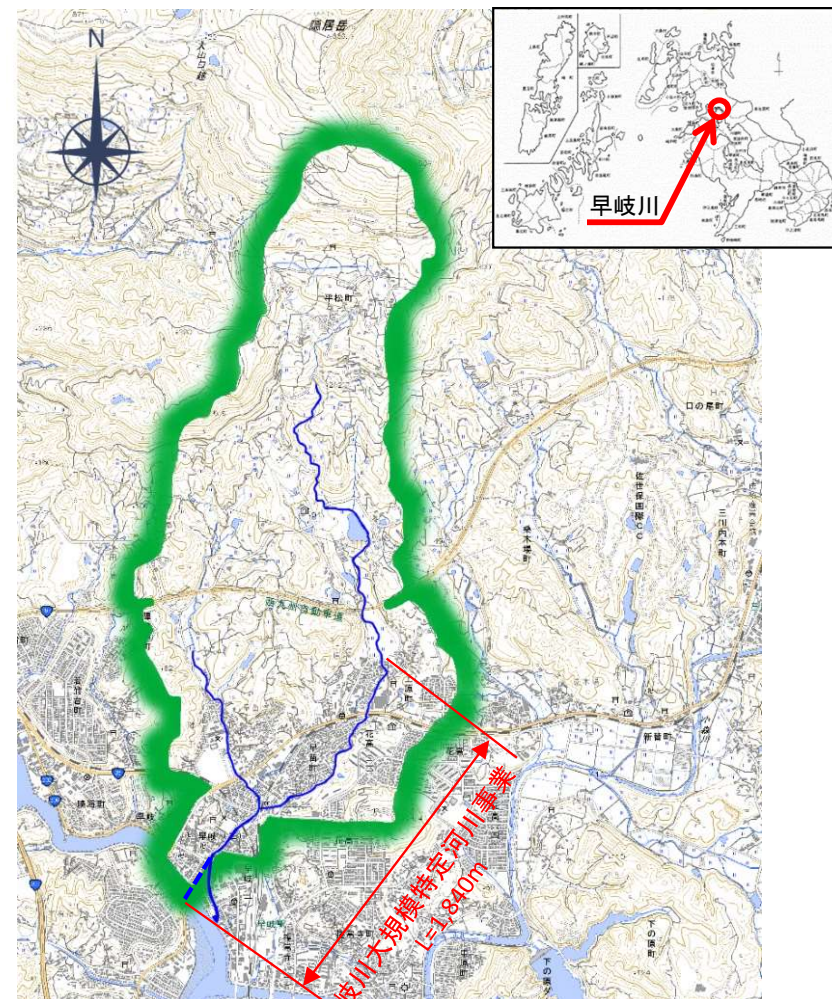
令和7年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

河川－3 広域河川改修事業
早岐川

事業主体 長崎県

再評価
の理由 再評価後5年経過
(事業費・工期)



流域面積: 4.17km²
幹川流路延長: 2.5km

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	備考
		着工	完了			
当初 (H26新規)	－	H26	R15	90	3.41	改修延長L=1,840m 新川開削、河道拡幅、河床掘削 築堤、橋梁架替等
土木部内報告 (H30)	事業採択後 5年経過時の 土木部内報告	H26	R15	90	3.41	【当初からの変更内容】 変更なし
第1回審議 (R2年度)	その他	H26	R15	90	3.36	【当初からの変更内容】 交付金事業から個別補助事業への移行
第2回審議 (R7年度)	再評価後5年経過 (事業費・工期)	H26	R18	112	2.58	【前回評価時からの変更概要】 埋蔵文化財の発掘調査期間の変更による工期延長 労務費・資材単価増による事業費増額

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

◆目的

早岐川は、河道が狭小なため、昭和42年7月、平成2年7月の豪雨により甚大な被害が生じた。このことから、平成26年～令和15年まで河川改修を行うことにより、浸水被害の軽減を図る。

◆事業概要

改修延長	L=1,840m
事業内容	新川開削、河道拡幅、河床掘削 築堤、橋梁架替等

◆事業経過

平成26年度	事業採択
平成28年度	用地買収着手
平成31年度	発掘調査開始
令和4年度	橋梁工事着手

事業進捗率 39.6%(事業費ベース)
用地進捗率 48.8%(面積ベース)



3. 事業の効果・必要性

＜河川の氾濫防止＞

想定氾濫区域内には、佐世保市早岐支所、早岐交番等の公共施設及び多くの家屋、国道35号、県道等の主要幹線道路が存在する。

＜過去の災害状況＞

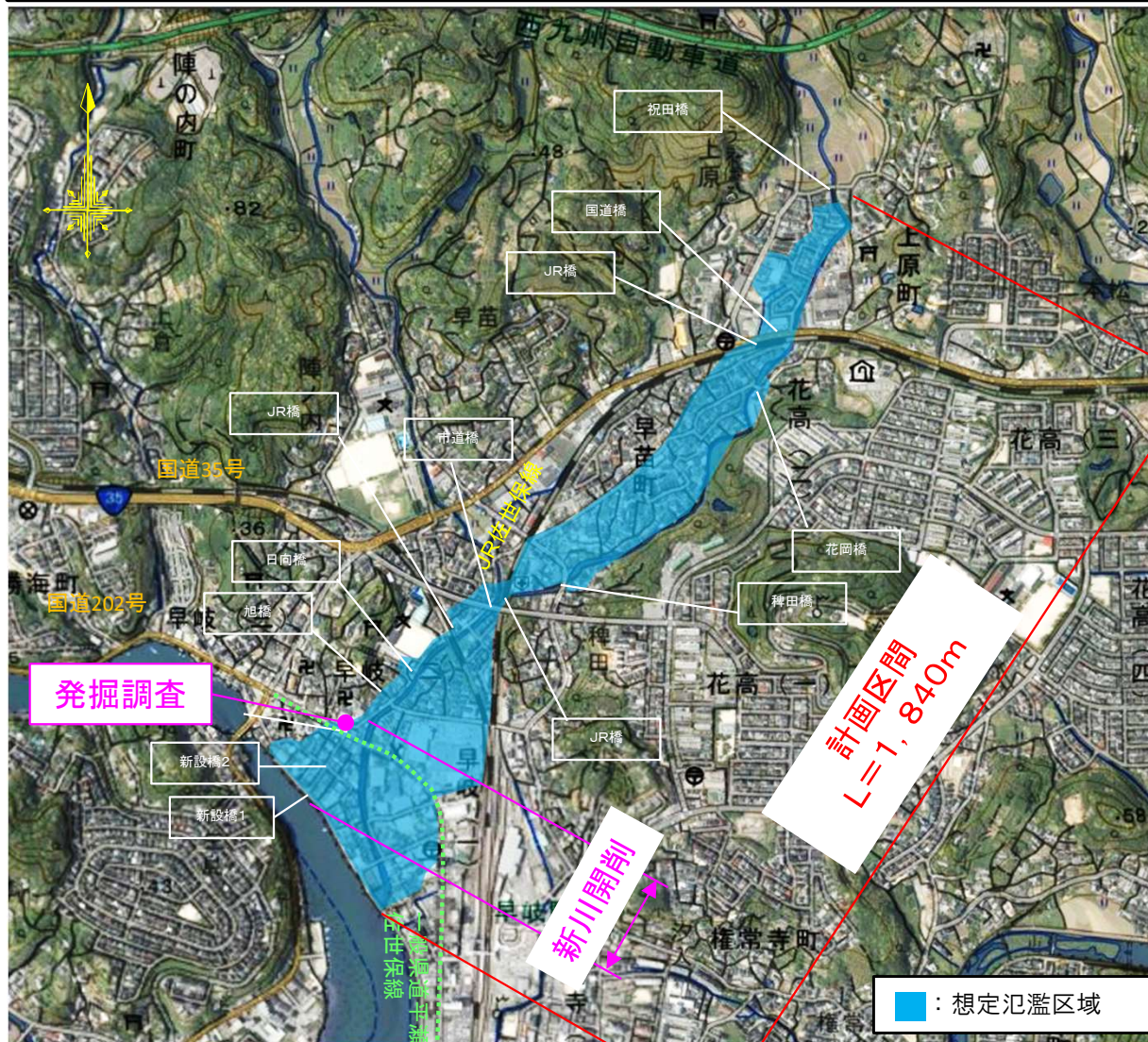
早岐川周辺は、過去にも家屋被害や公共施設が浸水被害を受ける等、甚大な被害に見舞われており、河川改修による事業効果が期待される。



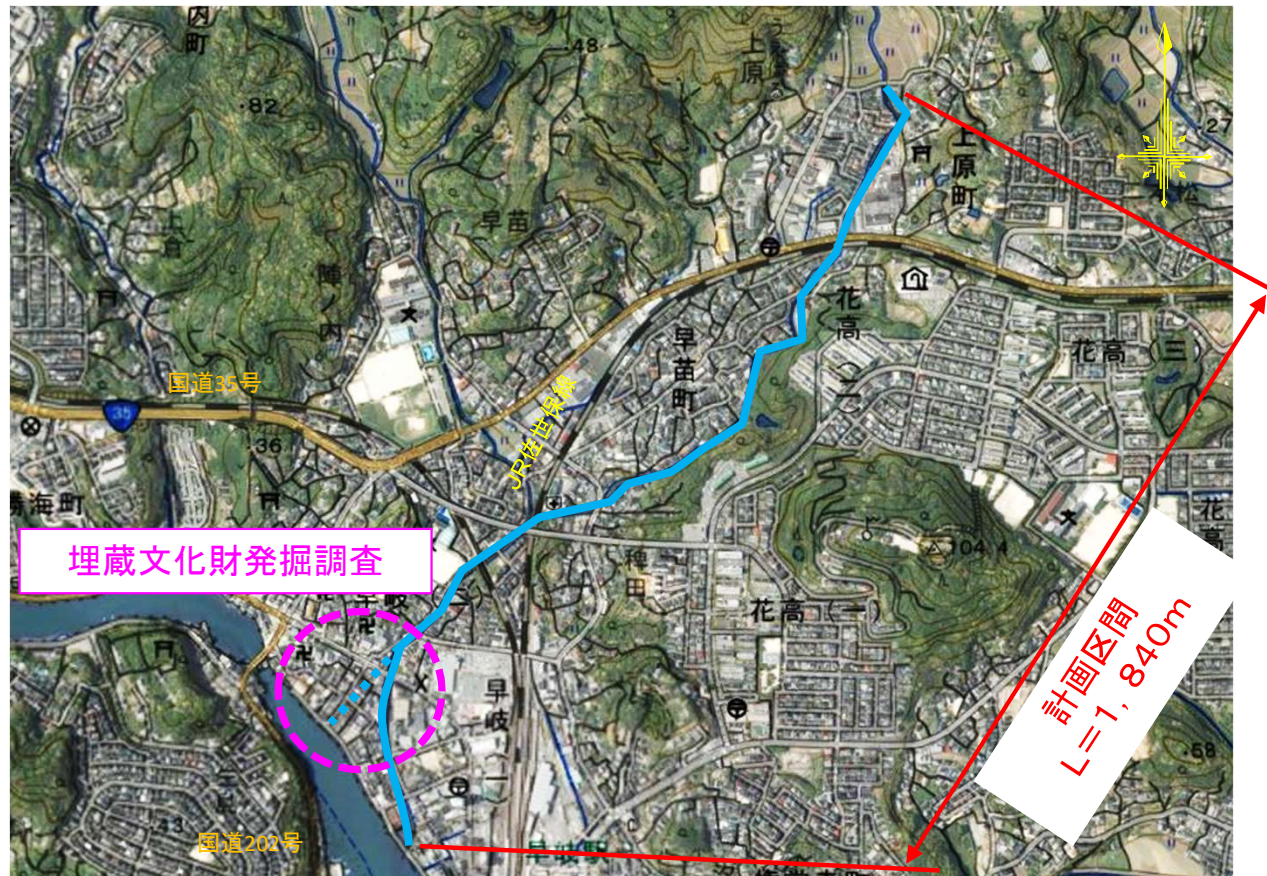
発生年月日	名称	浸水家屋数（戸）			浸水面積 (m2)
		床上	床下	合計	
S42. 7. 8～9	豪雨	0	535	535	700,000
H2. 6. 29～7. 2	豪雨(梅雨)	82	117	199	101,000

4. 事業の進捗状況

◆新川開削に伴う河口部の橋梁架設が完了した状況である。県道周辺では発掘調査が行われている。



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)



事業費増の内容	増 額	主な増額理由
①埋蔵文化財調査費	7.0億円	調査費用の増加
②その他	15.0億円	資材費及び労務単価の上昇による増加
合計	22.0億円	

4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

事業費増の内容	増 額	主な増額理由
①埋蔵文化財調査費	約7.0億円	発掘されている遺物数が想定よりも多く出土したことから、発掘作業及び遺物の資料整理に時間を要し、調査費用が増加した。



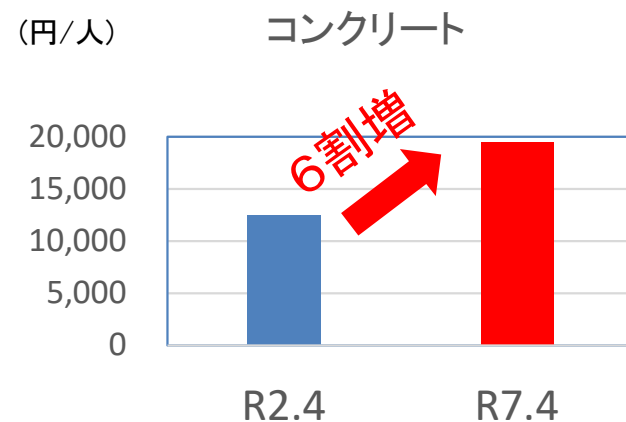
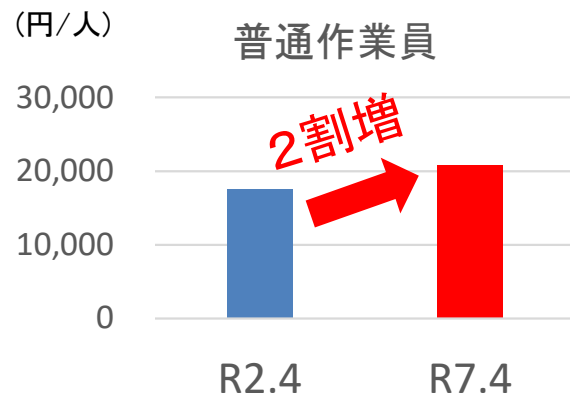
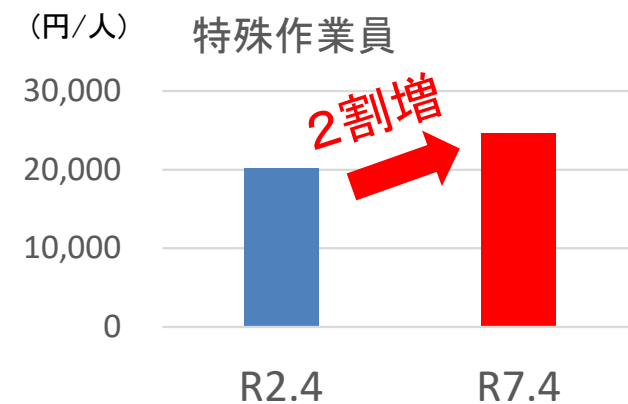
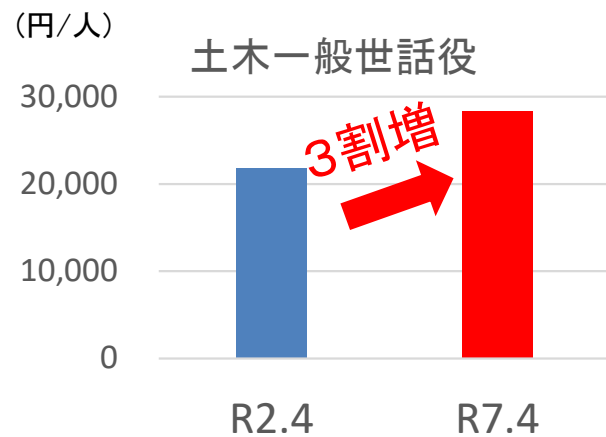
調査実績

年度	遺物数量(箱)	遺物点数(点)
1	216	43,200
2	604	120,800
3	680	136,000
4	475	95,000
5	497	99,400
6	350	70,000
合計	2,822	564,400



4. 事業の進捗状況(事業費の見直し)

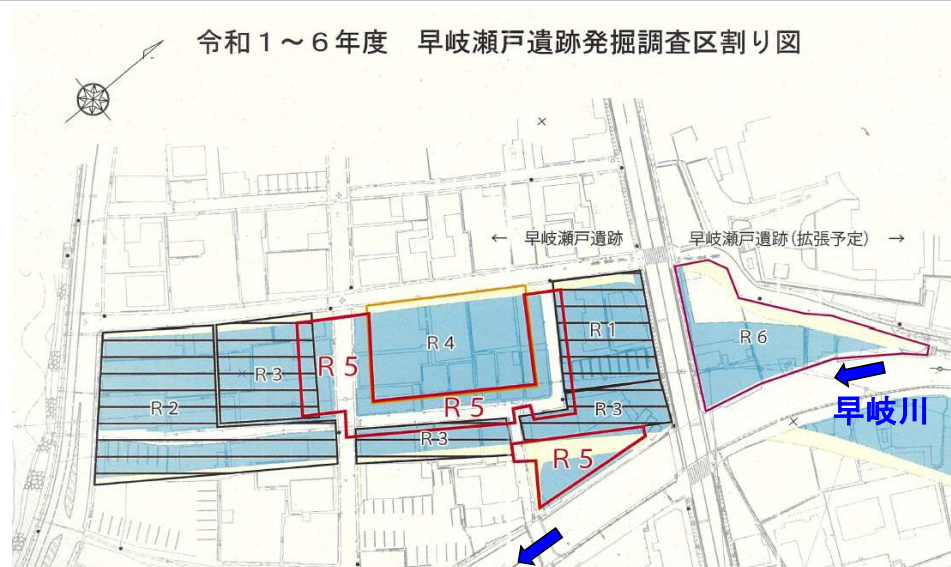
事業費増の内容	増 額	主な増額理由
②その他	約15.0億円	資材費及び労務単価の上昇による増加



4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】前回：令和15年→令和18年(3年延期)

・早岐瀬戸遺跡の文化財調査(発掘調査)に時間を要しているため。



計画

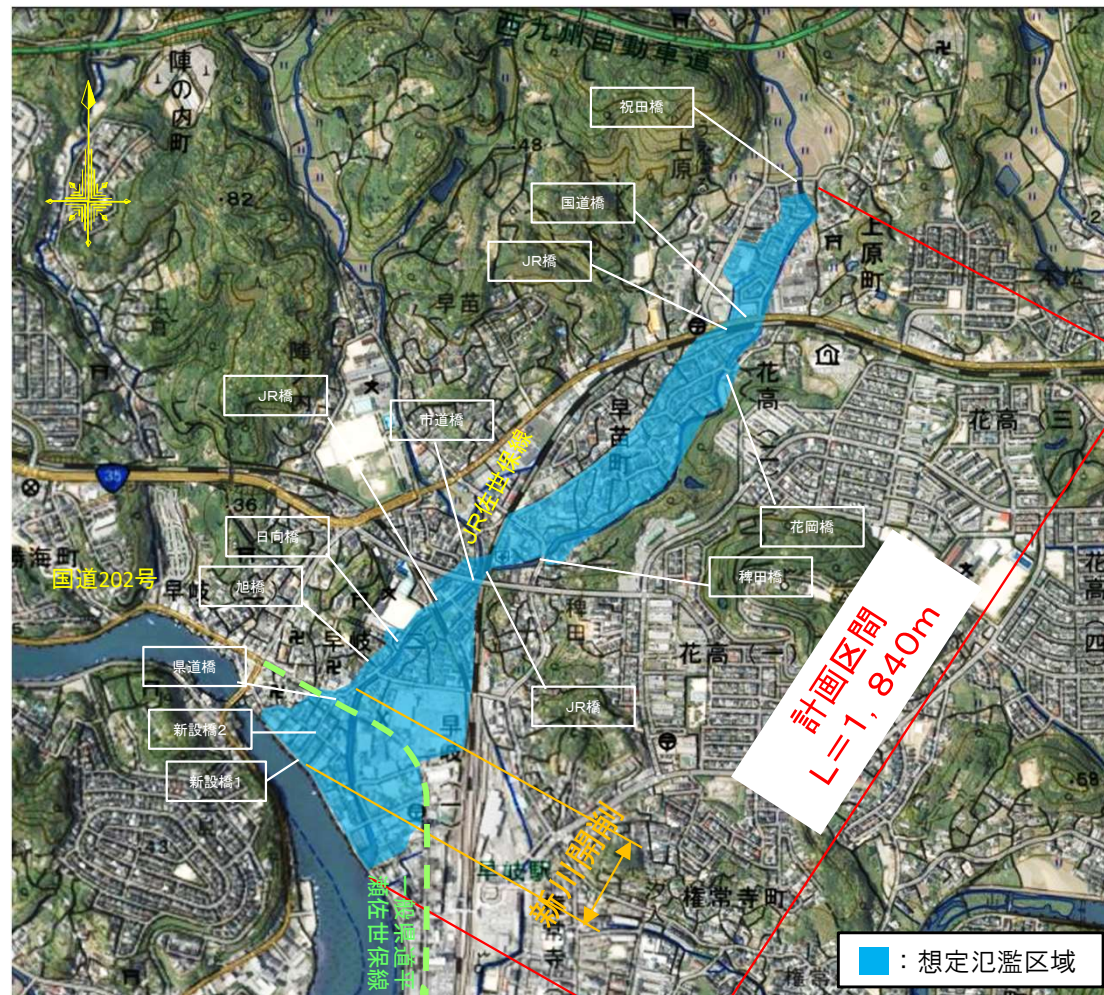
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
下流工区	埋蔵文化財調査															
	工事															
上流工区	用地交渉															
	工事															

実施

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18
下流工区	埋蔵文化財調査																		
	工事																		
上流工区	用地交渉																		
	工事																		

5. 社会経済情勢等の変化

◆早岐地区の中心部であり、公共施設等が集約されている地域であるが、社会情勢等の大きな変化は認められない。



6. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和2年度)	今回評価 (令和7年度)
残事業	4.37=256.2億円／58.6億円	4.81=276.8億円／57.5億円
全事業	3.36=283.4億円／84.3億円	2.58=307.2億円／119.2億円

〔費用〕

- ・河川整備に要する事業費(工事費、用地費)、河川維持管理に要する費用

〔便益〕

- ・家屋、家庭用品、事業所等の直接被害、営業停止、応急対策費等の間接被害、公共土木・公営施設被害防止に対する便益

〔プラスの要因〕

- ・治水経済マニュアルの改定(被害率の変更)

〔マイナス要因〕

- ・事業費の増加
- ・事業期間の延長

7. 対応方針(原案)

- ◆早岐川周辺は過去に何度も家屋が浸水被害に見舞われており、河川改修により氾濫防止に寄与する事業である。
- ◆事業進捗率は事業費ベースで約40%〔44.4億円/112.0億円〕(令和6年度末)であり、用地進捗率は面積ベースで約49%となっている。
- ◆地元の「佐世保市」からも早急な河川改修事業の整備が望まれている。
- ◆事業効率化に大きく寄与する新たなコスト削減を図る可能性はない。
- ◆事業費の増額や期間の延伸はあるものの、順調に進捗しており、費用対効果も十分見込まれる。

